

## 四月度月次祭 理事長お話

「月次祭」、おめでとうございます。

麗らかな春の陽が降り注ぎ、桜の美しい季節となりました。

心新たに新年度を迎え、神様の新しい創造のみ業にお仕えさせていただける感謝と希望を胸に、本日のご参拝に臨ませていただきました。

先般、私どもは、聖地・瑞雲郷において「春季大祭・豊穰祈願祭」を執り行わせていただきましたこと、主神とご一体であられる明主様に心より感謝申し上げます。

教主様には、今の教団状況にあって、世界救世教「責任役員会」と称する方々からの圧力が強まる中、万難を排してご出座くださり、「夜昼転換した全く新しい信仰」への不撓不屈ふとうふくつのご決意をもって、私どもを力強くご教導くださいましたこと、全国の皆さまと共に心からの感謝を込めて御礼申し上げたいと存じます。

また、私どもと同様に、教主様とひとつ心で「全く新しい信仰」の道を求めておられる、いつのめ教団の約160名の代表の方々がご一緒に参拝に臨まれ、私どもにとりましても大変勇気づけられる大祭となりましたことも、大きな喜びとさせていただいております。

先程は、全国の信徒の皆さまを代表して、〇〇布教区〇〇布教所の〇〇さんが感謝奉告をしてくださいました。ありがとうございました。

〇〇さんは、「祈りの言葉」と出会い、ご主人の浄化や未信者さんへの「会う、聞く、浄霊」など日常生活の様々な事柄に際して、心に浮かぶ思いを自分のものとせず、神様に委ねさせていただく“想念の御用”の実践についてご奉告くださいました。

私は、感謝奉告をお聞きし、教主様のお言葉に対する様々な反応があることについて、思わせていただいたことがあります。

私は、神様が、お言葉を素直にお受けし実践する方を通して、本当はすべての人の中心に、ご自身の子どもをお生みになるという神様のみ旨を知っている分霊が輝いていることを、教えてくださっているのではないかと受け止めさせていただきました。

また一方で、神様が、お言葉に反発する方を通して、私も含めてすべての人が神様のみ旨を忘れ、自分本位の生き方になってしまっていたことを教えてくださり、そのことに赦しをもってピリオドを打ち、天国に迎え入れてく

ださっていることに、気づかせようとしてくださっているのではないかと思います。ありがとうございました。

このように、私は、神様が今、明主様を通じて、教主様のお言葉を受け止める私どもの様々な心の反応をお使いになって、私どものうちに輝いている神様の本当の親心を知るといふ、真の救いに目覚めさせてくださっているものと信じております。

さて、私は、全国の信徒の皆さまに、世界救世教の中で起きていることの真実を、「内報」を通じてありのまま、詳らかにお伝えしております。

今、世界救世教は、東方之光(MOA)といづのめ教団小林執行部が、教主様と㊦之光教団を排除し、教団の骨格を大きく変質させようとしています。

世界救世教は、平成9年に長きに及んだ教団浄化から和解し、その後、包括被包括体制として進む中で、「教主様のもとに全信徒が一つ心となり、救世主・明主様の御心を求め、その実現に向かって、和合結束して歩み出す」(大経綸12号)ことを世界中の信徒に表明いたしました。

私は、今彼らがしようとしていることは、世界中の信徒に表明したことへの背任行為であると思います。

彼らは今、教主様と㊦之光教団を排除するための規則変更を文化庁に提出することを目論んでいるものと思われます。そのために、規則変更を断固として承認されない四代教主様の廃位と、本来岡田宗家になれない人の中から、規則変更を承認してくれる新たな教主を擁立することを画策しているやに聞いております。

私どもは、このような教団の骨格と秩序を破壊する暴挙極まりない規則変更を、断固として認める訳にはまいりません。

つきましては、私どもの確固たる意思表示として、規則変更反対署名に取り組み、文化庁及び裁判所に提出させていただきたく、全国の信徒の皆さまには、現在署名活動への呼び掛けをさせていただいております。

世界救世教から教主様と㊦之光教団を排除するための規則変更、断固反対する署名活動へのご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

そして、私は、こうした対応と共に、それ以上に、今の教団の浄化をお受けしているものとして、自分自身が革正し悔い改めるべきは何なのかに気づき、自らの信仰を深めていく大切な機会とさせていただくことを、決して忘れないようにしなければと思わせていただいております。

ですから、大祭の折に、すべてを統括されている神様のご意志に少しでも気づかせていただくことが、この度の浄化の本質なのではないかとお伝えさ

せていただきました。

ところで、世界救世教を治めておられるのは、どなたなのでしょう。

私は、教主様でも執行部でもなく、ましてや教団の弁護士でもなく、申し上げるまでもなく、天地万物一切を創造された主神であると信じております。

この教団を治めておられるのは主神であり、主神からメシアの御名を託された明主様です。

その上で、「私は、メシヤ教教主岡田茂吉であります」と、明主様がお述べになったように、明主様が定められた教主の座に、今も生きてお働きくださっている明主様のみ心を見つめ、求めていくことは、信仰の眼を通して考えてみても、また、「教主は、教祖の聖業を継承」すると定めた、世界救世教の規則からみても、それは明らかなことであります。

私は、ここに、世界救世教の執行部が本来持つべき信仰と姿勢が示されているものと固く信じております。

教主様は、この度の大祭で、

さて、誠に恐れ多いことではありますが、私どもは、主神によって創造された者です。

主神によって創造されていない人など、一人もおりません。

その重大な事実を明主様から知らせていただいた者として、私どもは、一人ひとり、主神に対し、“わたしはあなたによって創造された者です”と断言させていただく必要があると思います。

と、このように仰せになりました。

私どもは、主神がすべてのものの本当の親であられることを、そして、すべてのものは主神の子どもであることを、“重大な事実”と信じていたのでしょうか。世界救世教の信徒として、私どもは、この信仰において何に重きを置いて歩んできたのでしょうか。

本当の親であられる主神の存在とそのみ旨を知るといふ、私どもが本来根幹とすべき“信仰の中心軸”が、初めから、今も、これからも、私ども世界救世教の信徒一人ひとりを貫いていることに、私どもの心がいつも向けられているのでしょうか。

私は、先程申し上げましたように、神様が、お言葉を受け止める反応を通して、①之光教団といづのめ教団と東方之光(MOA)の三つをひとつとしてお使いになって、信仰の本当の中心軸をはっきりさせようとしてくださって

いるのではないかと、従って、一人ひとりがそのお役にお使いいただいているのだと受け止めております。

私は、教主様のお言葉は、この中心軸を私どもに思い出させ、確認させてくださるもの、この中心軸と私どもの心のズレ、歪みを、明主様がいつも補ってくださりお使いくださっていることに気づかせてくださるものであると思います。そして、明主様と共にあるメシアの御名にある赦しをお受けしていることに目覚めさせてくださるものとして、極めて大切なご教導であると心から受け止めています。

ですから、私は、み教えの神髄に気づかせてくださるものとして、一途に実践させていただけるよう努めております。

例えばですが、明主様は、「霊主体従」という、すべてを貫く根本的な法則があることをみ教えくださいました。

私は、その根幹は、見えない世界(霊の世界)が見える世界を動かしている、そして、一切は自分の内側にある、ということだと受け止めています。つまり、自分の中にある見えない世界が、この信仰において極めて大切な世界なのではないでしょうか。

明主様は、人類は「神の子」、「神の宮」、「神の器」であることをみ教えくださいました。そして、教主様は、私どもの内側には、神の分霊<sup>わけみたま</sup>という本守護神である魂が、そして、大光明燦然と輝く無限のエネルギーに満ち溢れた天国という光と力の世界が存在していることを、繰り返しご教導くださっています。

私どもは、この自らの内なる世界をどれだけ大切にしてきたのでしょうか。今、私どもは、⑤之光教団のホームページのトップに記されている、「私たちは、神さまの子どもとなるために生まれてきました」という言葉が、世界救世教にとって、明主様のみ教えをいただいているものにとって、どれだけ大切な言葉なのかに目覚めさせていただく必要があるのではないのでしょうか。

また、教主様は、大祭の折、教団の現在の状況について、

主神は、現在私どもが困難と感じている状況を、どのような思いでご覧になっていらっしゃるのでしょうか。

と、私どもに問いかけてくださり、そして、続けて、

明主様のお歌に、「天国の産声今や挙げむとし世は陣痛の悩みの中なり」というお歌があります。

私どもの今の悩みが陣痛であるならば、すでに新しい子供が母体の中で生き生きと存在しているように、天国という私どもの中心には、すでに新しいものが存在し、働いておられるということではないでしょうか。

私どもが今、善と悪との間を行ったり来たりする、堂々巡りの心の姿、また、人間性が醸し出す、権勢、権力、支配、所有、優越性をもって、人間同士が競い合う姿を見せられたり、自分自身が巻き込まれたりして、それを困難と感じ、悩みと感じさせられるということは、私どもの中で、すでに新しいものが成し遂げられ、生き生きと働いていることを、私どもに気づかせてくださっているからではないでしょうか。

新しいものが生き生きと働くことができるのは、主神が、すでに、人類が長い間引きずってきた相克の世界にピリオドを打ってくださったからなのです。

と、このようにお示しくさせていただきました。

私どもは、この度の教団の状況を、嘗ての教団浄化の再来と受け止めるのではなく、神様が、自分本位、人間本位の信仰に赦しをもってピリオドを打ってくださったことに目覚めさせてくださる大切な機会として受け止めさせていただきたいと存じます。

そして、私どもの中で、すでに成し遂げられ、生き生きと働いている新しいものの受け皿としての心を持たせていただきたいと思います。

そのために、このような神の赦しをお受けしていることをお知らせいただいたものとして、先ず私ども自身が、「祈りの言葉」を中心とした“想念の御用”を実践し、すべてのものと共に天国に立ち返り、自分のものとしていたすべてを主神に帰させていただく信仰の道を、感謝と希望をもって進ませていただきたいと思います。

最後になりましたが、私どもは、来月5月4日、大阪にて「教主様ご巡教・信徒大会」をお許しいただきます。

このことにつきましても、東方之光といづのめ教団小林執行部は、東方之光の長澤好之氏名で、「このようなご出座は決して“あってはならない”もの」と、教主様に対し、脅しをかけております。

教主様がはっきりと、三教団あつての世界救世教である、と明言しておら

れるにもかかわらず、です。

どちらにしろ教主様は、このような脅しに屈されるようなお方ではありません。

教主様は、「春季大祭」のお言葉の最後に、

私は、明主様のお導きのもと、誠そのものであられる主神を信頼申し上げ、悩みとを感じるものがどのようなものであろうとも、新しいものがすでに働いていると認め、ためらうことなく、明主様が成し遂げられた道を、皆様と共にまっすぐに進ませていただくことを、ここに決意いたします。

皆様、明主様が全人類のために用意してくださった、全く新しい、真<sup>まこと</sup>の救いの道を歩ませていただくではありませんか。

と、このように私どもに力強く呼びかけてくださいました。

私どもも、来月のご巡教に向けて、「真善美」配布を力とする「会う、聞く、浄霊」をはじめ様々な事柄に際して、この本当の救いの道をお受けし、一人でも多くの方に宣べ伝えていく営みとさせていただけるよう、「祈りの言葉」を中心とした“想念の御用”の実践にひたむきに努めさせていただきます。

来月の「教主様ご巡教」に向かう皆さま方のご神業奉仕の上に、大いなるみ恵みと安らぎを賜りますようお願い致しております。

ありがとうございました。